

事後評価シート

県土整備部

番号	事業名 箇所名	市町村名	事業概要	事業期間			事業費 (百万円)	対象 理由	事後評価の結果 2	総合評価	担当課	特記事項
				着手	1 再評価	完成						
	河川事業 松山川	延岡市	延長 L=1,480m	H10	H20	H22	1,216	<p>【事業の目的】 浸水被害の著しかった松山川を改修し、浸水被害を軽減する。</p> <p>【事業効果の発現状況】 事業完了後も、改修前の流下能力を超えるような降雨が発生しているが、いずれも洪水被害は発生していない。また、1/50確率にて整備を実施し、日雨量288.8mm、時間最大79.5mmを計画としている。 (H9.9.16:総雨量268.5mm、日雨量183.6mm、時間最大32mm 浸水家屋123戸 浸水面積33ha) (H17.9.6:総雨量475mm、日雨量229.5mm、時間最大32mm 浸水家屋86戸 浸水面積70ha) (H24.10.17:総雨量212.5mm、日雨量207.0mm、時間最大44.5mm、浸水家屋0個 浸水面積0ha)</p> <p>【事業による環境の変化や環境保全】 多自然川づくりの取組により、生物の生育環境の保全が図られた。 ・現地発生土を利用した覆土を行い、既存植生の回復に配慮 ・河床幅の変化や起伏の形成 ・自然の流れによるみお筋の形成 また、内水面漁協からの聞き取りにより魚類等は着手前と完成後で変化はないとのこと。</p> <p>【施設の維持管理状況】 出水期前に目視による点検を実施し、護岸等の施設について、適正に管理している。 点検結果や維持管理記録等を河川カルテに整理し、適正な維持管理を図っている。 昨年度までは河川パートナーシップ事業にて草刈りを実施していたが、地元住民の高齢化等により実施困難となり、草刈業務委託にて対応している。</p> <p>【今後の事業評価の必要性】 当該区間の整備により、1/50確率の河道が完成し、その後の出水では、浸水被害が発生していないが、計画規模相当の出水は発生していない。また、完成後の河川環境について、今後、調査等を実施する必要があることから来年度に事業評価を実施する必要がある。</p> <p>【改善措置の必要性】 当該区間の改修により、流下能力の向上や河川環境の保全について、一定の効果が得られているが、今後実施予定である調査等の結果を基に今後の改善措置の必要性について検討が考えられる。</p> <p>【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】 当該区間の改修は、事業化から概ね10年で整備を完了することができた。 河川環境保全については、本河川にて検討することにより他の中小河川における取組事例となることも考えられる。 また、今後の維持管理をしていくためには、コスト縮減の面からも、河川パートナーシップ事業を継続させる体制づくりを今後検討していく必要がある。</p>	一定の事業効果が認められるが、河川環境保全について事後評価を実施する必要がある。	河川課	その後の浸水被害は発生していないが、河川事業として初めての事後評価対象案件であり、河川環境保全の観点から事後評価を実施することにより今後の中小河川河川整備の指標としたい。	

(対象理由) 全体事業費が基準額以上であり、かつ事業完了後一定期間が経過した事業再度、事後評価の必要があると判断した事業

- 1 再評価の実施年度については、直近のものを記載すること。
- 2 事後評価の際には、出来る限り客観的な数値を記載すること。